

特定研究集会（課題番号：2020C-02）

集会名： シニアと若手科学者の間の討論のための IDRiM ヴァーチャル・ワークショップ
(第 11 回総合防災に関する国際会議)

研究代表者： 横松 宗太

開催日： 令和 2 年 9 月 23 日 ～ 9 月 24 日

開催場所： オンライン

参加者数： 248 名 (所外 216 名, 所内 32 名)

- ・大学院生の参加状況： 45 名 (修士 2 名, 博士 5 名 他 38 名は不明) (内数)
- ・大学院生の参加形態 [研究発表]

研究及び教育への波及効果について

令和 2 年度は当初は「第 11 回総合防災に関する国際会議」を京都で開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大によって、京都大会は翌年に延期されることになった。そして代替企画として、オンラインにて「シニアと若手科学者の間の討論のための IDRiM ヴァーチャル・ワークショップ (IDRiM Virtual Workshop for Interactive Discussions between Senior and Early-Career Scientists)」を開催した。当初は例年の会議の一部である「若手研究者セッション」を多少拡大する程度の規模を予想していたが、本学会がもつ、若手研究者に対する教育熱も相まって、例年の会議全体と変わらない参加者数によって開催されることになった。会議の中心を占めた自主企画セッションでは、それぞれのセッションにおいて、企画者であるシニアの研究者が、応募した大学院生・若手研究者に対して、多角的な視点から丁寧なコメントや指導を行った。基調講演は世界で本分野を牽引するシニア研究者によって行われ、新しいテーマによる討論セッションも生まれた。また、本学会の学術誌にて、ワークショップの成果を審査付き論文として出版するための特集号が企画され、15 本に近い論文が投稿された。オンライン開催でありながら、少なくとも大学院生・若手研究者への教育という点では、例年以上に大きな意義と効果が得られた会議となった。

研究集会報告

(1) 目的

国際総合防災学会は岡田憲夫教授（当時の本所の教授、現在は名誉教授）を会長、多々納裕一教授を副会長として 2010 年に設立された。2020 年現在も防災研究所より、アナマリア・クルーズ教授（会長）、多々納裕一教授（副会長）、矢守克也教授、横松宗太准教授（会計）の 4 人の理事を輩出している。

学会は毎年国際会議を開催し、2020 年の今回は第 11 回の会議となる。近年は約 20 カ国から 200 人を超える数の研究者や実務者、博士課程学生らが集い、災害のリスクガバナンスの構築のための学際的・分野横断的な議論を行っている。世界に総合防災のネットワークを拡張することを目的として、開催地を毎回移して、現地から多くの新しい参加者を得ている。

上記のように、今回は、新型コロナウイルスの感染拡大により、オンライン企画「シニアと若手科学者の間の討論のための IDRiM ヴァーチャル・ワークショップ (IDRiM Virtual Workshop for Interactive Discussions between Senior and Early-Career Scientists)」を開催することとなった。初めてのオンライン開催のため、準備は例年と異なる難しさを経験したが、結果的に、会議は例年と変わらない参加者規模で行われ、活発な議論が行われた。また、新たに女性研究者ネットワークのグループが形成されるなどの成果も得られた。

会議には毎年、防災研から多くの大学院生が参加して、国際的な研究者を目指す足がかりとして貴重な機会となっている。また同学会には国際応用システム分析研究所 (IIASA) など、GADRI に参画している機関も多く、それらとの連携が強化されることも期待される。

(2) 成果のまとめ

今回は「シニアと若手科学者の間の討論のための IDRiM ヴァーチャル・ワークショップ (IDRiM Virtual Workshop for Interactive Discussions between Senior and Early-Career Scientists)」をタイトルとして開催され、会議の中心を占めた自主企画セッション

では、セッション企画者と大学院生・若手研究者の間で熱の入った議論が行われた。基調講演と討論セッションの講演者、企画者とタイトルを以下に記す。

<基調講演>

1. Ortwin Renn 教授「新型コロナウイルス危機を理解し、管理するためのシステムリスクの視点の付加価値 (The added value of the systemic risk perspective for understanding and governing the COVID-19 crisis)」
2. Adam Rose 教授「新型コロナウイルスがアメリカ経済に与える影響 (The Impact of the COVID-19 on the Economy of the United States)」

<討論セッション>

1. Ilan Chabay 教授, 岡田憲夫名誉教授 「リスクガバナンスの複雑な課題に対処するための参加型創造的デザイン (Participatory creative design to address complex challenges of risk governance)」
2. 望月純子博士, 松田曜子博士 「災害科学で活躍する女性たち (Women in disaster science: A networking session)」
3. 北川かおり氏, Subhayoti Samaddar 博士, 城下英行博士, 奥村与志弘博士 「あなたにとっての”IDRiM”とは。 (What if your “IDRiM”- what is your experience of or idea for a collaborative project?)」

また、97 個の口頭発表セッション, 3 個の討論セッションが行われた。本会議の議論の成果を素に IDRiM Journal に特集号が企画されている。2010 年の学会創設以来、毎年開催してきた本国際会議は今回で 11 回目となる。これまでの取り組みによって、総合防災(Integrated Disaster Risk Management, IDRiM)のコンセプトや重要性への認知や理解は着実に向上している。来年の会議では、学会が発足した京都において、過去 11 回に亘る総合防災の議論をとりまとめ、新たな 10 年のロードマップを描くことが予定されている。

(3)プログラム

添付ファイル

(4)研究成果の公表

<http://idrimjournal.com/>

<http://idrim.org/>

<http://idrim2020.com/>